令和５年　日出町議会　９月定例会

令　和　５　年
行 政 視 察 研 修 報 告 書

日出町議会福祉文教常任委員会

福祉文教常任委員会行政視察報告書

【視察日時】 2023 年 7 月 18 日～20 日
【視察場所】 7 月 18 日岡山県奈義町
7 月 19 日兵庫県神戸市
7 月 20 日大阪府豊中市

1. 岡山県奈義町

■ 視察の目的

奈義町は約 20 年間一貫した歳出削減と政策の見直しを行い子育て支援施策を拡充しており、結果として 2019 年の合計特殊出生率が 2.95 になった町として奇跡のまちとも称されている。「我が町の子育て支援」というと経済的な支援施策を目玉に取り組む自治体が多い中、「地域ぐるみで安心して子育てのできる環境づくり」を重視している。子育て支援の本質についての学ぶため視察に伺った。

■ 奈義町の取り組みの中で印象的だったもの

〇なぎチャイルドホーム
旧保育園の園舎を全面リノベーションした町営施設である。地域ぐるみの子育て拠点として多世代交流が盛んである。行政主導ではなく、保護者がやりたい子育てをサポートする子どもを真ん中に人や地域がつながる場所。

チャイルドホームでの主な活動
・自主保育「たけのこ」
幼児期の子どもたちに「家庭的な雰囲気の中で育ってほしい」という願いから始まった。保護者と保育士が当番制で遊びや活動を行う。親同士の交流の場にもなっており、親の育児肯定感を高めることを重視している。
・ちょっと子どもを預けたい時の一時保育「すまいる」
日出町のファミリサポート事業と内容は一緒だが利用料が半額の 300 円/h と利用しやすい。
・農業ママ楽ベジ
ママ仲間で地元の野菜を使った商品開発などをしながら、忙しいママや地域の方々へお弁当を届けている。
・Ｂ＆Ｇ財団子ども第三の居場所ＲＯＯＭ
小学生から中学生までの異年齢で放課後を過ごすみんなの居場所。おやつ作

りや工作など行う。この日のテーマはSDGs。皆楽しそうに学んでいた。

〇しごとコンビニ事業

子連れでもちょっとだけ働きたいやシニア世代の空き時間を使ってちょっとだけみんなと働きたいという「働き手」と、繁忙期にちょっとだけ手伝ってほしいや草刈りなど困ったときにちょっとだけ手助けしてほしいという「事業主」のちょっとの需要と供給をマッチングさせる事業。ママからのアンケートをもとに地方創生交付金で立ち上げ、実施主体は一般社団法人しごとえん（町民主体で法人化）となっている。

自分の希望する仕事があれば30分から働くことが出来る。一つの仕事を皆でワークシェアすることでより多くの人が地域や社会に関われるような総活躍のまちづくりにもなっている。また仕事を任せる側の業務の効率化や、仕事の受け皿づくりをすることで新たな産業の創出、働きやすい職場環境づくりにもなっているようだ。

〇町民の気持ちに寄り添った経済的支援

・在宅育児をする保護者にはこども1人当たり毎月15000円の支援金。
・大学生に独自の奨学育英金制度
・特定不妊治療を受けた方に県の助成を引いた額の1/2以内で年額20万円を助成等

〇その他

賃貸住宅の整備・分譲地整備・多世代共生型ナギフトカード・産前産後のアプローチをさらに推進するため大阪大学との連携事業をおこなう等

なぎチャイルドホームの視察

２.神戸市立外国人墓地

■　視察の目的

　これまで町ではムスリム墓地建設を許可するしないの議論がなされてきたが、先般協定が締結されたことを踏まえ、次のフェーズを考えることが必要だと考える。日出や杵築の住民が心配していることについては、実際に土葬をしてみなければ分からない部分も多いため、以前から土葬もおこなっている神戸市へ土葬墓地の課題や環境への影響の有無を確認するため視察に伺った。

■　神戸市立外国人墓地について

・1961 年に現在の場所へ移転完成。世界各国の約 2900 名の墓碑が宗教宗派別に区分けされている。広さは 14 ヘクタール（甲子園球場の 3.5 倍）
・被葬者は英・米・独・ロシア人の順に多い。
・これまですべての埋葬方法割合は土葬が 45%、火葬が 20%、不明が 35%となっている(2021 年度時点)。
　ただし 2000 年以降の土葬割合は 17.9%であり、現在土葬はイスラム教とユダヤ教だけである。
・土葬の区画は残り 5～6 ほど。新規の埋葬は年間 5 体以下。
・水源地まで直線距離で約 2ｋｍだがこれまで影響は出ていない。
・大きなトラブルはないが時間にルーズな所が困ることはあった。
・土葬の際、公衆衛生対策はしていない。深さを守ってもらえれば良い。
・重ねて埋葬するケースはあった。条例で 1ｍより浅い穴はＮＧとなっているのでそういった土葬墓地の規定を守れば墓地の使用者が申請するのであれば市側は拒否する理由はない。

外国人土葬墓地の一部

3. 豊中市社会福祉協議会

■　視察の目的

CSW（コミュニティソーシャルワーカー）の勝部麗子さんは既存の福祉制度では取りこぼされてきた方や制度の狭間で救えなかった方（例えば引きこもり・不登校・ゴミ屋敷・ヤングケアラー・独居暮らし高齢者など）の課題に対して、断らない福祉を多機関協働で行う重層型支援の先駆者である。今年度から日出町でも重層型支援体制整備事業の移行準備期間として取り組む予定であることから、制度の狭間から地域作りをおこなう豊中社協の取り組みを学ぶため視察に伺った。

■　豊中市社協の取り組みで印象的だったもの

〇社協の CSW が支える「住民主体の地域活動」により、住民が安心して住めるまちづくりをおこなっている。住民ボランティアの数は 1 万人を超え、2018 年大阪府北部地震の際には 1 万 2000 世帯の安否確認を 4 時間で行った。

〇小学校区ごとに福祉委員会（自主ボランティア組織）を設置し、福祉なんでも相談窓口を通じてどのような相談でも受け止め、把握した課題を地域住民とともに解決を図る。「福祉相談窓口」とはただ待っているだけではなく堀起こしをしていく相談窓口。

〇豊中あぐり
高齢男性は女性に比べ地域活動への参加が少なく、孤立や健康への影響が懸念される。都市型農園で協働作業を通じてふれあい、認め合い、支え合う共有空間が福祉コミュニティとなり、リタイア後の男性と人や地域との新しい関係を築く。

〇地域包括ケア推進総合会議
子ども家庭センター、保健所、行政機関の代表などが集まり地域課題やその解決に向けて協議。CSW が地域の課題を情報提供する。

〇その他の取組の一部
マンションサミット交流会、男性家族介護者交流の集い、ちょボラサロン、ひとり暮らし高齢者支援方策検討委員会、福祉ゴミ処理プロジェクト等

■視察を終えて

子育てのまち奈義町とひとりぼっちにさせない豊中社協の取り組みで大きく共通していることが３つあり、「安心」と「住民を巻き込んだまちづくり」と「課題の本質に向き合う」である。子育ての不安の本質は経済負担だけではない。奈義町では子育ての大変さはどこから来るものなのかに向き合い、子育て中の不安負担を減らすにはどういった支援が必要なのかを具現化し、それを行政と住民がサポートしている。豊中社協では支えられる側が支える側になってもらうことで全ての人に居場所と役割を持ってもらえるように、どんな相手にも諦めない。様々な困りごとの本質に寄り添っている。表面化している問題だけなら職員 1 人で解決できるが（例えばゴミ屋敷を片付けたがらない家主を説得して片付けることは豊中社協職員のスキルでは可能）それではその課題根本部分の解決とはならないため、近隣住民が一緒に片付けようとなるように働きかけている。どちらの町も住民の声を良く聞き、課題の本質と向き合い、住民、特にリタイア後の方の力を活かして支えあいのまちづくりが出来ている。そうすることで人と地域との繋がりが濃くなり「何か自分に困ったことが起きてもきっと大丈夫」という安心感を住民が持てる、安心感が湧くと行政への信頼が深まるという好循環がうまれていると感じた。

ただしこの好循環が生まれるまでどちらの町も時間はかかっている。子育て支援の充実も、制度の狭間でとりこぼされてきた問題も簡単に解決しない故に大きな社会課題となっていることを忘れず、議員も職員も拙速に結果を求めたり、できるできないのジャッジワーカーにならないよう、粘り強く町の福祉の充実に努めていくことの重要性を学んだ。

また神戸市立外国人墓地については土葬墓地建設に関する様々な不安、疑問について質疑応答がおこなわれ、こちらの墓地においては土葬をすることで特段の問題はこれまで発生していないことが分かった。

今回の視察で学んだ多くのことを今後の議会活動に活かしていきたい。

勝部局長から重層的支援体制整備事業などの説明